



のびっこ

令和8年9月発行
恵那市社会教育課 太田
☎0573-26-6853

このおたよりでは、子育て情報や、子育てについて考えるキッカケを掲載していきます。

地震や豪雨への備え、はじめてますか？

防災の3要素 自助・共助・公助

自助

自ら取り組む

自助とは、自分や家族の命を守るため、日頃から災害に備え、災害時に適切に行動することです。

共助

地域みんなで取り組む

共助とは、地域や身近な人どうしが、日頃からつながり、災害時に助け合うことです。災害時に助け合えるよう、日ごろから地域でのコミュニケーションが必要です。

公助

行政・公的機関が取り組む

公助とは、国や自治体、消防、警察、自衛隊などによる公的な支援です。物資の備蓄や避難所の整備、救助・支援活動のほか、民間事業者や他の自治体との災害時応援協定などがあります。

私たちができること

- ①飲料水や食料を備蓄する
(最低3日分、できれば1週間分)
- ②避難に備えて非常持ち出し袋を準備しておく
- ③家の中の災害対策(家具の固定など)
- ④安否の確認方法を決めておく
- ⑤最寄りの避難所や避難経路を確認しておく



自助・共助・公助は、それぞれが連携し、補い合うことが大切です。

言語聴覚士講話「ことばを育むためにできること」より

ことばは『伝えたい気持ち』から

vol.1



- こどもが『誰かに伝えたい』と思う気持ちが【ことば】になります。
- 横に並んで、一緒に見る・作る・遊ぶ体験を。共感や共有が『伝えたい気持ち』につながります。
- 乳幼児期は、発音や文法が未熟でも、伝えたい人に伝わっていることが大切です。
- 今は、言い間違いも訂正せず、大人は自然なことばで返してあげましょう。

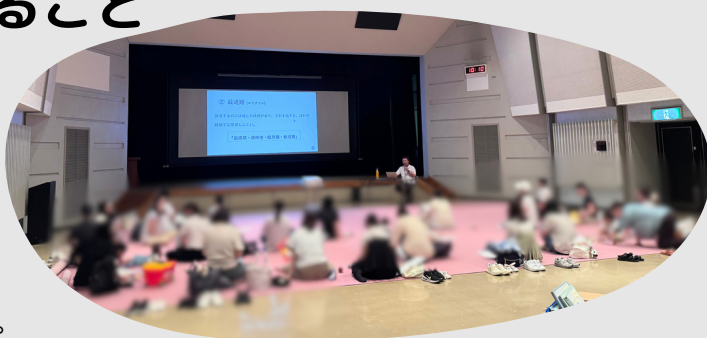
活動紹介

ことばを育むためにできること

中央乳幼児学級で、言語聴覚士の先生から「ことばの発達」に関してのお話を聞きました。乳幼児学級はお子さんと一緒に活動になるので、ざわついたり、こどもが気になったりしてなかなかお話を聞き切ることは難しいのですが、参加者のみなさんは、それぞれ気になるポイントに耳を傾けていたようです。

のびっこ通信では、これから6回に分けて、この時の講話内容をお伝えしていきます。

「これから大きくなるにつれ、自分でできることが増えていきます。トイレ、食事、着替えなど、できるのに“ママやって！”と言ってくることも。そうやって親を頼ってきた時は、できる範囲でお手伝いしてあげて。【大人に言ったらいいことあった！】経験を積んでいくと、こども園や学校で、わからない時、できない時に先生に“助けて”が言えるようになります。集団の中でヘルプが出せないと、置いていかれちゃうこともあって辛いです。」とのお話が印象的でした。



子連れ防災

できることから、ちょっとずつ！



防災の考え方は、家庭によってそれぞれです。
家族構成やペットの有無で備蓄量も異なります。

災害時、女性やこどもが性被害に遭うこともあります。
予防策として、大人もこどもも、女性的な色や形の服装は控えましょう。カッパや持ち出し用リュックなど、これから購入される方は、選ぶ時の参考にしてください。

今月のプチ防災
女っぽい
服装を避ける



うれしい！たのしい！よかった！

乳幼児学級のみなさんに聞いた「うれしかったこと」「たのしかったこと」「よかったこと」を共有します。

一緒に、日常にある「小さいいいこと探し」をしませんか？
引き続き、毎月のアンケートで聞いていきますので、教えてくださいね。

- ・イワシをおいしそうに食べていた
- ・「ママ」とはっきり言った
- ・新しくおしゃべりできるママさんと繋がれた
- ・後回しになっていたファミサポの登録完了！
- ・体調が悪い時に、上の子が下の子と遊んだり、お世話をしたりしてくれたおかげで、少しゆっくりできた。ありがたい！
- ・こどもといっしょにお昼寝できた



乳幼児学級
アンケートフォーム



バックナンバー▼

編集後記：「ママだっこ」「トイレ来て」「ママも！」…。言語聴覚士さんの話を聞いてから、朝は20キロの娘を抱っこしてトイレに連れていき、抱っこで食卓へ。今だけ、今だけ。

